SONY

2-190-706-**06**(1)

デジタルパワード ミキサー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

SRP-X500P

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4～6ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

・煙が出たら ・異常な音、においがしたら ・内部に水、異物が入ったら ・製品を落としたり、キャビネットを破損したときは

↓

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

・炎が出たら

↓

すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠ 注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

⚠ 警告 4
⚠ 注意 5
その他の安全上のご注意 6
概要 7
　主な特長 7
　説明書の種類について 7
　CD-ROM の使いかた 8
動作環境 8
本機の性能を維持するために 9
各部の名称と働き 10
　フロントパネル 10
　リアパネル 13
設置と装着 15
　本体チューナーユニットの装着 15
　誤操作防止用パネルについて 15
　本機をラックマウントする 16
　WRU-806 チャンネル設定方法 16
システム構成例とスピーカーの接続 18
　工場出荷時設定を使用したシステム構成例 18
　特注操作パネル・環境機器等を使用したシステム構成例 19
　スピーカーの接続 20
　SYSTEM TYPE の選択 20
　ハウリングを抑制する 23
制御 24
　PROJECTOR CONTROL RS-232C 端子 24
　PROJECTOR CONTROL CONTROL S IN/OUT 端子 25
　REMOTE RS-232C 端子 25
　REMOTE PARALLEL 端子 25
　REMOTE PARALLEL 端子に接続する特注操作パネルの例 26
　学習リモコンに本機の機能を学習させる 28
付録 29
　ブロックダイヤグラム 29
主な仕様 30
　システム 30
　音声入力端子 30
　音声出力端子 30
　映像入力端子 30
　映像出力端子 30
　リモート端子 31
　その他の端子 31
　一般 31
　寸法図 32
　コネクターの仕様 32
故障かなと思ったら 34
保証書とアフターサービス 35
　保証書 35
　アフターサービス 35

⚠警告

火災　感電

下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

禁止

雨の当たる場所や、油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所やこの取扱説明書に記されている仕様条件以外の環境に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

規定外の電圧で使用しない

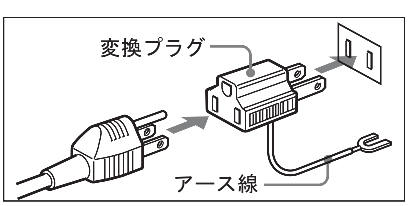
この機器は AC100V 仕様です。
機器にあわせて正しい電圧で使用しないと、火災や感電の原因となります。

アース線を接続せよ

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電することがあります。次の方法でアースを接続してください。

- 電源コンセントが 3 極の場合
  指定の電源コードを使用することで安全アースが接続されます。
- 電源コンセントが 2 極の場合
  指定の 3 極→ 2 極変換プラグを使用し、変換プラグから出ている緑色のアース線を建物に備えられているアース端子に接続してください。



安全アースを取り付けることができない場合は、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご連絡ください。

指示

付属の電源コードを使う

付属の電源コードを使わないと、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- **電源コードを加工したり、傷つけたりしない。**
- **重いものをのせたり、引っ張ったりしない。**
- **熱器具に近づけたり、加熱したりしない。**
- **電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。**
- **ラックマウントするとき、レールにはさみ込まない。**

万一、電源コードが傷んだら、ソニーのサービス担当者に交換をご依頼ください。

指示

電源コードのプラグ及びコネクターは、突き当たるまで差し込む

まっすぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、ソニーのサービス担当者または営業担当者にご相談ください。

水ぬれ禁止

水にぬれる場所で使用しない

水ぬれすると、漏電による感電発火の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

分解禁止

分解や改造をしない

分解や改造をすると、火災や感電、けがの原因となることがあります。
内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

指示

本機は日本国内用です

交流 100V でお使いください。
海外などで、異なる電圧で使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意

下記の注意を守らないと、けがをしたり、周囲の製品に損害を与えることがあります。

指示

2 人以上でラックマウント・運搬する

本機は重量があり、かつ左右のバランスが悪いので、けがや事故を防ぐため、ラックマウントや運搬は必ず 2 人以上で行ってください。

指示

安定した場所に設置する

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、製品が倒れたり、搭載した機器が落下してけがをすることがあります。
十分な強度がある水平な場所に設置してください。

指示

移動時にはコード類をはずす

電源コードや接続コードは、足に引っかけると本機の落下などによりけがの原因となることがあります。
移動時には、コード類をはずしてください。

禁止

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 壁から 10cm 以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物 (じゅうたんや布団など)の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

指示

指定された方法でラックマウントする

ラックの取扱説明書に記載された方法以外で本機をラックに取り付けると、落下して故障やけがの原因となることがあります。

禁止

製品の上に乗らない、重いものを載せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

ファンが止まったままの状態で使用しない

ファンモーターが故障すると、火災の原因となることがあります。交換は、本機を購入された販売店にご依頼ください。

その他の安全上のご注意

警告

設置の際には、容易にアクセスできる固定配線内に専用遮断装置を設けるか、使用中に、容易に抜き差しできる、機器に近いコンセントに電源プラグを接続してください。
万一、異常が起きた際には、専用遮断装置を切るか、電源プラグを抜いてください。

警告

アースの接続は、必ず電源プラグを電源コンセントへ接続する前に行ってください。
アースの接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

注意

付属の電源コードは本機の専用品です。
他の機器には使用できません。

機器を水滴のかかる場所に置かないでください。また水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。

概要

主な特長

SRP-X500P は、オーディオミキサー、RGB/ ビデオスイッチャー、プロセッサー、パワーアンプを 3U サイズに収めた多機能デジタルパワードミキサーです。

9 種類の AV システムタイプをプリセット

スイッチを切り替えるだけで、さまざまな AV システムに対応できます。

プロジェクター制御機能を搭載

専用の RS-232C 端子および CONTROL S 端子により、プロジェクターやプラズマディスプレイの電源 ON/ STANDBY や入力の切り替えがおこなえます。
ソニー製プロジェクターおよびプラズマディスプレイに対応しています。

デジタルミキサー搭載

24bit/48kHz サンプリングの A/D 、D/A コンバーターと高性能 DSP を搭載。一般のミキサーがもつ機能に加え、チャンネル独立のフィードバックリデューサーやオートゲインコントロール（AGC）など、デジタルならではの多機能を実現しました。

豊富なオーディオ入出力端子

4 系統のマイク入力、2 系統のステレオライン入力を 4 系統の出力に自由に出力できます。

コンポジット /RGB/ コンポーネント信号に対応

コンポジット入力を 3 系統、RGB/ コンポーネント入力を 2 系統装備しています。これにより RGB 、VIDEO スイッチャーを別に用意することなくシンプルなシステムを実現できます。コンポーネント信号は 480p 、1080i などのハイレゾリューション信号にも対応、RGB は SXGA （1280 × 1024 ピクセル）に対応します。

デジタルアンプを搭載

90W + 90W + 50W + 50W （8Ω または 4 Ω）のパワーアンプを搭載。またハイインピーダンススピーカー 60W （70V LINE 82 Ω）にも対応しています。

便利な外部リモート端子

- **RS-232C 端子を装備**
  外部コンピューターやシステムコントローラーから本機の操作がおこなえます。
- **パラレル入出力端子を装備**
  入力端子では本機の入力切換、音量調整、シーンリコールなどが行えます。出力端子を使用し、本機からスクリーンや照明機器などの環境機器の操作、本機の状態表示などがおこなえます。

チューナーユニットを 2 台まで装着可能

ワイヤレスマイクロホンを使用するために、2 台までの WRU-806（別売り）または UWP-X7/X8（別売り）のチューナーユニット URX-M2 を本機に装着することができます。
WRU-806 を使用する場合には、以下のワイヤレスマイクロホンを推奨いたします。

- UHF シンセサイザートランスミッター WRT-824（タイピン型マイクロホン）
- UHF シンセサイザーワイヤレスマイクロホン WRT-804（ハンド型マイクロホン）

ラックマウントに対応

EIA 規格の 19 インチ標準ラック（高さ 3U サイズ）にマウント可能です。

付属のソフトウェアにより詳細な設定が可能

本機の内部設定をおこなう SRP-X500P Manager を付属の CD-ROM に収録しています。
これにより、AGC、ルーティング、イコライザーなどをお好みに合わせて設定できます。

説明書の種類について

本機には、2 種類の説明書が付属しています。

- 取扱説明書（付属の CD-ROM に収録）
- ユーザーガイド（付属の CD-ROM に収録）

取扱説明書では、主に本機の操作のしかたを、ユーザーガイドでは、付属の CD-ROM に収録されている SRP-X500P Manager を使った本機の設定のしかたについて説明しています。

CD-ROM の使いかた

付属の CD-ROM には以下のファイルが収録されています。

SRP-X500P 取扱説明書

本 PDF ファイルです。

SRP-X500P Manager ユーザーガイド

SRP-X500P Manager の機能や使いかたを説明した PDF ファイルです。

SRP-X500P Manager

パソコンから本機の各種設定を行うことができるプログラムファイルです。英語版と中国語（簡体字）版の 2 つのプログラムファイルがあります。

ファイルの開きかた

1 付属の CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに入れ、「マイコンピュータ」をクリックする。

2 「SRP-X500P」をダブルクリックする。

Documents フォルダーと SRP-X500P Manager フォルダーが表示されます。

取扱説明書の PDF を見るには

Documents フォルダー内の HARD フォルダーをダブルクリックし、読みたい言語の PDF をダブルクリックする。

ユーザーガイドの PDF を見るには

Documents フォルダー内の SOFT フォルダーをダブルクリックし、読みたい言語 の PDF をダブルクリックする。

PDF ファイルをご覧にいただくためには、以下のソフトウェアがコンピューターにインストールされている必要があります。
- Adobe Reader 6.0 以上

メモ

Adobe Reader がインストールされていない場合は、下記 URL よりダウンロードできます。
http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html

Adobe、および Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

SRP-X500P Manager を使用するには

あらかじめ、ハードディスクへのインストールが必要です。

◆ 詳しくは、SRP-X500P Manager ユーザーガイドをご覧ください。

動作環境

SRP-X500P Manager を使用するための推奨動作環境は以下のとおりです。

OS	Windows XP（SP3 以降） Windows Vista（SP1 以降） Windows 7（32bit/64bit）
CPU	お使いの OS で推奨されるシステム要件に準ずる
メモリー	128MB 以上
ハードディスクの空き容量	20MB 以上の空き容量が必要

使用上のご注意

- お使いになるコンピューターに上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。アップグレード環境での動作保証は致しません。
- 推奨環境のすべてのコンピューターについて動作を保証するものではありません。

商標について

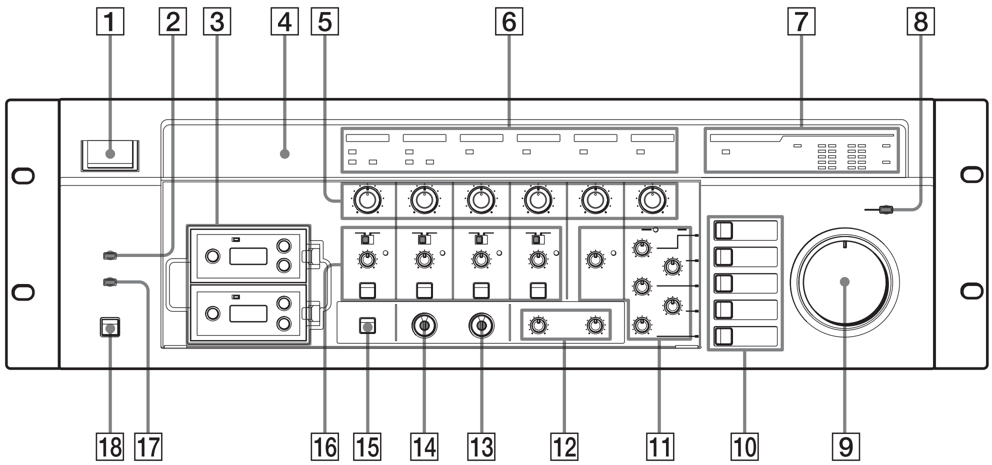
- Intel、Intel Core、Pentium はアメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本機の性能を維持するために

- 本機は周囲温度 0 ℃～ 40 ℃の範囲で使用してください。
- 本機を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- 本機を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
  - 回転機、変圧器などの付近
  - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
- 表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

各部の名称と働き

フロントパネル



（図は、2 枚の誤操作防止用パネルを取り外した状態です）

1 POWER（電源）スイッチ
本機の電源を入 / 切します。
SRP-X500P Manager での設定により、本機に接続しているプロジェクターやディスプレイモニターの電源を、本機の電源と連動させてオンまたはスタンバイ状態にすることができます。
工場出荷時には、本機の電源を入れてもプロジェクターやディスプレイモニターの電源は入りませんが、本機の電源を切ると連動してスタンバイ状態になるように設定されています。

◆ プロジェクターやディスプレイモニターの電源連動のための設定について詳しくは、「SRP-X500P Manager ユーザーガイド」をご覧ください。

2 EMG（非常用放送）インジケーター
REMOTE PARALLEL 端子に接続された非常用放送設備からの制御によって、SPEAKERS 端子と LINE OUTPUT 端子からの出力がカットされているときに赤く点灯します。

3 チューナーユニット用スロット（WL1/WL2）
ワイヤレスマイクロホンを使用するとき、2 台までの UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806（別売り）、または 2 台までの UWP-X7/X8（別売り）のチューナーユニット URX-M2 を装着することができます。

◆ チューナーユニットの装着方法については、「本体チューナーユニットの装着」（15 ページ）をご覧ください。

4 リモコン受発光部
別売りの学習機能付きリモートコマンダー（RM-AV3000U など）を受発光部に向けて操作し、本機のコマンドを学習させたり、本機を操作することができます。

◆ 機能の学習のさせかたについて詳しくは、「学習リモコンに本機の機能を学習させる」（28 ページ）およびご使用になる学習機能付きリモートコマンダーの取扱説明書をご覧ください。

5 入力調節つまみ
各入力チャンネルのレベルを調節します。
- MIC1/WL1：MIC INPUT 1 端子からの入力、またはチューナーユニット用スロット（WL1）に装着されたチューナーユニットからの入力レベルを調節します。
- MIC2/WL2：MIC INPUT 2 端子からの入力、またはチューナーユニット用スロット（WL2）に装着されたチューナーユニットからの入力レベルを調節します。
- MIC3：MIC INPUT 3 端子からの入力レベルを調節します。

MIC4：MIC INPUT 4 端子からの入力レベルを調節します。

LINE：LINE IN 端子からの入力レベルを調節します。

AV/RGB：AV/RGB INPUT 音声入力端子からの入力のうち、10 AV/RGB SELECT ボタンで選択された信号の入力レベルを調節します。

6 入力インジケーター

SIGNAL（信号レベル）インジケーター：各入力端子に信号が入力されると、緑色に点灯します。

RF（高周波入力）インジケーター：チューナーユニットの受信状態が良好なとき、緑色に点灯します。

AF（音声出力）インジケーター：チューナーユニットから音声が出力されたとき、黄色に点灯します。

7 SPEAKER OUTPUT（スピーカー出力）インジケーター

PROTECTION（保護回路）インジケーター：内蔵パワーアンプの保護回路が動作しているときに赤く点灯します。

CLIP（クリップ）インジケーター：内蔵パワーアンプの出力が過大で、信号が歪んだときに赤く点灯します。

70V LINE（ハイインピーダンススピーカー接続）インジケーター：SPEAKERS CH-3/4 端子が、ハイインピーダンススピーカー（70V LINE）を接続する設定になっているとき、緑色に点灯します。

VU メーター：12 SPEAKER OUT つまみで調節される前の信号レベルを、5 段階の LED で表示します。

ご注意

内蔵パワーアンプの保護回路が動作すると、スピーカーや本機を保護するために出力をカットします。

- 以下の場合は、本機の電源を切り、原因を取り除いてからお使いください。
  - 過大出力により製品内部の温度が規定値を超えたとき
  - 接続したスピーカーのインピーダンスが低すぎるとき
  - 吸排気孔（本体左右側面）が、ほこりなどによりふさがれているとき
  - スピーカー端子がショートしたとき
- それでも動作しない場合は、本機の電源を切り、お買上げ店または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのサービス窓口にご相談ください。

8 MASTER MUTING（マスターボリューム消音）インジケーター

REMOTE PARALLEL 端子または REMOTE RS-232C 端子からのコマンド、または別売りのリモコン操作によってマスターボリュームがミューティングされているとき、赤く点灯します。

9 MASTER（マスター出力）調節つまみ

アサインされたチャンネルの音量を調節します。

SRP-X500P Manager で、調節できるチャンネルを設定することができます。

工場出荷時には、SPEAKERS CH-1/2/3/4 端子と LINE OUTPUT 1/2 端子からの出力を調節する設定になっています。（LINE OUTPUT 3/4 端子からの出力は調節できません。）

10 AV/RGB SELECT ボタン（A ～ E）

AV/RGB INPUT 映像 / 音声入力端子に接続された機器を選択します。

選択されたボタンは、緑色に点灯します。

11 LINE AV/RGB 入力調整部

TRIM（基準レベル調整）つまみ：

LINE IN 端子および AV/RGB INPUT 端子から入力される信号の基準レベルを調節します。－ 30dBu ～ 0dBu の範囲内で調節できます。

REF.（基準入力）インジケーター：

LINE IN 端子または AV/RGB INPUT 端子に基準レベル以上の信号が入力されると黄色に点灯します。

音声を入力している状態で、時々 REF インジケーターが点灯するように TRIM つまみを調整します。

12 SPEAKER OUT つまみ

内蔵パワーアンプのアッテネーターです。TRIM つまみ、入力調節つまみ、MASTER 調節つまみで入力信号の基準信号とマスター出力を調節したあと、最後にこのつまみで SPEAKERS CH-1/2 端子、CH-3/4 端子への出力レベルを調節します。

13 PROJECTOR PROTOCOL（プロジェクタープロトコル）選択スイッチ

PROJECTOR CONTROL RS-232C 端子、または CONTROL S IN/OUT 端子で制御するプロジェクターまたはモニターディスプレイの機種に応じて選択します（0 は、SRP-X500P Manager を使って設定するときに選択します）。

POWER スイッチを入れたとき、選択スイッチの設定が有効になりますので、選択スイッチの切り換えは POWER スイッチを切った状態で行ってください。

◆ プロジェクターまたはモニターディスプレイの機種と、スイッチの切り換えについて詳しくは、「PROJECTOR CONTROL RS-232C 端子」（24 ページ）または「PROJECTOR CONTROL CONTROL S IN/OUT 端子」（25 ページ）をご覧ください。

ご注意

LCD データプロジェクター VPL-PX15 は、PROJECTOR CONTROL 端子部の CONTROL S 端子で制御します。

14 SYSTEM TYPE（システムタイプ）選択スイッチ

使用する AV システムのスピーカー配置に応じて 1 ～ 9 のプリセットパターンの中から選択します（0 は、SRP-X500P Manager を使って設定するときに選択します）。POWER スイッチを入れたとき、選択スイッチの設定が有効になりますので、選択スイッチの切り換えは POWER スイッチを切った状態で行ってください。

◆ 各プリセットパターンの内容について詳しくは、「SYSTEM TYPE の選択」（20 ページ）をご覧ください。

⑮ IR OUTPUT MODE（リモコン学習）ボタン

別売りの学習機能付きリモートコマンダーに、本機の機能を学習させることができます。

◆ 機能の学習のさせかたについて詳しくは、「学習リモコンに本機の機能を学習させる」（28 ページ）およびご使用になる学習機能付きリモートコマンダーの取扱説明書をご覧ください。

⑯ マイクロホン入力調整部

＋ 48V（DC ＋ 48V 電源供給）ON/OFF スイッチ： ON にすると、コンデンサマイクロホン用の DC ＋ 48V 電源が MIC INPUT 1 ～ 4 端子から供給されます。工場出荷時には、OFF に設定されています。

ご注意

＋ 48V ON/OFF スイッチの切り換えは、必ずすべての入力調節つまみを絞った状態か、本機の電源を切ってから行ってください。

TRIM（マイク入力基準レベル調節）つまみ： MIC INPUT 1 ～ 4 端子から入力される信号の基準レベルを調節します。－ 60dBu ～－ 30dBu の範囲内で調節できます。

ご注意

- 本機に装着されたチューナーユニットからの入力基準レベルは調節できません。
- TRIMつまみは－60dBu～－50dBuと－49dBu～－ 30dBu で信号レベルのレンジを切り換えています。このため、調節中に一瞬音が途切れることがありますが、故障ではありません。

REF. (基準入力) インジケーター： INPUT 1 ～ 4 端子に基準レベル以上の信号が入力されると黄色に点灯します。音声を入力している状態で、時々 REF. インジケーターが点灯するように TRIM つまみを調整します。

FEED BACK REDUCER（ハウリング抑制）ボタン： ハウリング抑制機能の設定をしたり、機能を ON/OFF します。ボタンのインジケーターは、ON で緑色に点灯しす。

◆ ハウリング抑制機能の設定について詳しくは、「ハウリングを抑制する」（23 ページ）をご覧ください。

⑰ RS-232C インジケーター

REMOTE RS-232C 端子で、コマンド送受信が行われているときに、緑色に点灯します。

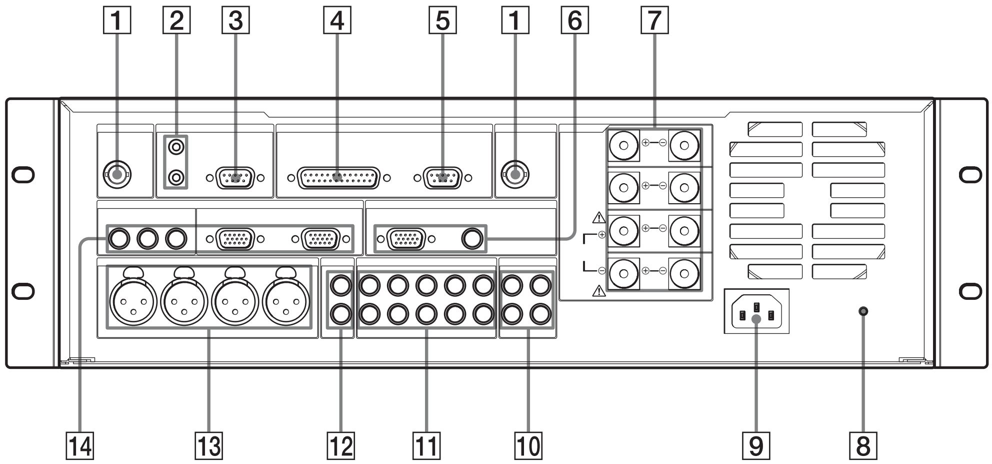
⑱ PROJECTOR ON/STANDBY（プロジェクター電源）スイッチ

本機に接続しているプロジェクターまたはモニターディスプレイを ON/STANDBY 状態にします。
スイッチが赤く点灯しているとき（スタンバイ状態）に押すとプロジェクターまたはモニターディスプレイの電源が入り、緑色に点灯します。
緑色に点灯中に 2 秒以上押したままにすると、緑色に点滅（クーリング状態）したあと赤い点灯に変わり、プロジェクターまたはモニターディスプレイはスタンバイ状態になります。

ご注意

- プロジェクターまたはモニターディスプレイを直接操作したり、付属リモコンで操作して ON/STANDBY や入力切換を行った場合、SRP-X500P の表示とプロジェクターまたはモニターディスプレイの状態が一致しなくなることがあります。
- プロジェクターまたはモニターディスプレイがクーリング中に SRP-X500P から電源 ON の操作を行っても、プロジェクターまたはモニターディスプレイが制御信号を受け付けないことがあります。クーリングが完了してから電源 ON の操作を行うようにしてください。

リアパネル



1 ANT IN a/b（アンテナ入力 a/b）端子（BNC）
本機に装着したチューナーユニット用のアンテナを接続します。
UHF アンテナ AN-820（別売り）が使用できます。

ご注意

- アンテナの設置場所が不適当な場合、音声が途切れるなどの受信不良の原因になることがあります。特に、取り付け後に場所の変更が容易にできない場所に設置する場合は、事前に充分な動作確認を行ってから取り付けてください。
- 接続にはインピーダンス50Ωの同軸ケーブルをお使いください。5D-FB で約 50m まで配線できます。5C-2V など 75Ω のものは、配線長が半減したり、トラブルの原因になることがあります。

雑音が発生するときは
設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。
この場合は、使用チャンネルを設定するときに、ワイヤレスマイクロホンやトランスミッターの電源を OFF にしたままチューナーユニットのチャンネルを切り換え、RF インジケーターが点灯していないチャンネル（雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル）を選択してください。
ワイヤレスマイクロホンやトランスミッター側も、同じチャンネルに設定して使用してください。

2 PROJECTOR CONTROL CONTROL S IN/OUT（プロジェクター制御コントロール S 入出力）端子（ステレオミニジャック）
この端子は、LCD データプロジェクター VPL-PX15 の制御専用です。

◆ この端子の働きについて詳しくは、「PROJECTOR CONTROL CONTROL S IN/OUT 端子」（25 ページ）をご覧ください。

3 PROJECTOR CONTROL RS-232C 端子（D-sub、9 ピン 凸）
6 OUTPUT COMPONENT/RGB または OUTPUT VIDEO 端子に接続された、RS-232C 端子を装備したプロジェクターまたはモニターディスプレイを制御するために使います。

4 REMOTE PARALLEL（パラレルリモート）端子（D-sub、25 ピン 凹）
入力 10 本、出力 10 本のパラレルリモート端子です。入力端子に接続したスイッチやボリュームなどから、本機を操作することができます。また、非常用放送設備と接続することにより、非常放送時には本機の音声出力をカットすることができます。
出力端子には、LED を接続して本機の状態を表示させることができます。
この端子に接続できる機器は以下の通りです。

入力端子

接続する機器	備考
スイッチ	–
ボリューム	10kΩ　B カーブ
非常用放送設備	リレーを経由して接続

出力端子

接続する機器	備考
LED	DC 24 V 以下　40 mA 以下
リレー	DC 24 V 以下　40 mA 以下

5 REMOTE RS-232C 端子（D-sub、9 ピン 凸）
RS-232C のシリアルリモート端子です。接続したパソコンからの SRP-X500P Manager での操作により、本機の設定を行うことができます。また、外部システムコントローラーから本機を制御することができます。

6 OUTPUT（映像出力）端子部
AV/RGB INPUT 映像入力端子から入力された映像信号を出力します。
映像方式の変換は行いません。

COMPONENT（コンポーネント）/RGB 端子（HD D-sub、15 ピン 凹）：コンポーネント信号または RGB 信号を出力します。

VIDEO（ビデオ）端子（ピンジャック）：コンポジット信号を出力します。

7 SPEAKERS（スピーカー）CH 端子（1 ～ 4）（ネジ式ターミナル）
内蔵パワーアンプの出力端子です。

◆ スピーカーを接続するには、「スピーカーの接続」（20 ページ）をご覧ください。

8 CIRCUIT BREAKER（ブレーカー）ボタン
本機の AC IN 端子に過大な電流が流れると、サーキットブレーカーが作動して電源を遮断します。
このボタンを押すとブレーカーはリセットされますが、本機をそのままお使いにならずに電源を切り、お買上げ店または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのサービス窓口にご相談ください。

9 AC IN（AC 電源入力）端子
付属の電源コードを接続します。

10 LINE OUTPUT（ライン出力）端子（1 ～ 4）（ピンジャック）
パワーアンプ、CD レコーダー、MD レコーダー等のライン入力端子に接続します。
工場出荷時には、LINE OUTPUT 端子 3/4 は、REC OUT 端子として働く設定になっています。
この設定は、SRP-X500P　Manager を使って変更できます。

11 AV/RGB INPUT 音声入力端子（A ～ E）（ピンジャック）
AV/RGB INPUT 映像入力端子に接続している映像機器の、音声出力端子に接続します。
本機を映像機器を接続するときは、映像機器の映像／音声出力端子を、本機の AV/RGB INPUT 映像 ／音声入力端子の同じアルファベット（A ～ E）の端子にそれぞれ接続してください。

12 LINE IN（ライン入力）端子（ピンジャック）
CD プレーヤー、MD レコーダー等のライン出力端子に接続します。

13 MIC INPUT（マイクロホン入力）端子（1 ～ 4）（XLR-3-31 タイプ）
マイクロホンを接続します。
チューナーユニット用スロット（WL1/WL2）にチューナーが装着されている場合は、ワイヤレスマイクロホンの電源を入れた時点で MIC INPUT 1/2 端子からの入力よりもワイヤレスマイクロホンからの入力が優先されます。

14 AV/RGB INPUT 映像入力端子（A ～ C：ピンジャック D, E：HD D-sub、15 ピン 凹）
11 AV/RGB INPUT 音声入力端子に接続している映像機器の、映像出力端子を接続します。
本機を映像機器を接続するときは、映像機器の映像／音声出力端子を、本機の AV/RGB INPUT 映像 ／音声入力端子の同じアルファベット（A ～ E）の端子にそれぞれ接続してください。

設置と装着

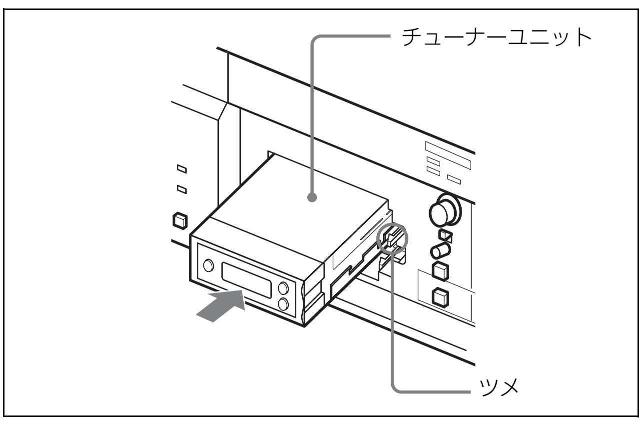
本体チューナーユニットの装着

本機には、2 台までの UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806（別売り）、または 2 台までの UWP-X7/X8（別売り）のチューナーユニット URX-M2 を装着することができます。

ご注意

- チューナーユニットの装着・取り外しの前に、必ず本機の電源を切ってください。ノイズ発生の原因になります。
- 装着するときは、チューナーユニットを奥までしっかり差し込み、スロットのツメで固定されていることを確認してください。
- チューナーユニット用スロット内部には手を入れないでください。

1 チューナーユニットの上下を確認してスロットに差し込む。



2 本機の電源を入れ、「WRU-806 チャンネル設定方法」（16 ページ）に従ってグループとチャンネルを設定する。

グループとチャンネルは、使用するワイヤレスマイクロホンと同じにします。

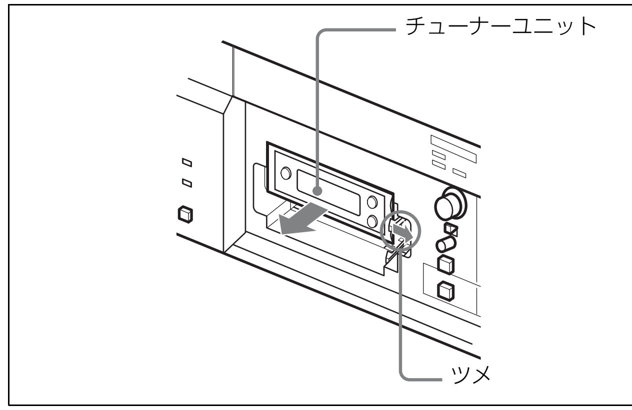
◆ UWP-X7/X8 の設定方法については、UWP-X7/X8 の取扱説明書をご覧ください。

3 ワイヤレスマイクロホンの電源を入れ、チューナーユニットが受信状態になっているかどうか確認する。

チューナーユニットがワイヤレスマイクロホンからの電波を正常に受信すると、チューナーユニットの RF インジケーターが点灯します。
RF インジケーターが点灯しないときは、マイクロホンの使用チャンネルがチューナーユニットのチャンネル設定と異なっているか、マイクロホンの電池が消耗しているときです。

チューナーユニットを取り外すには

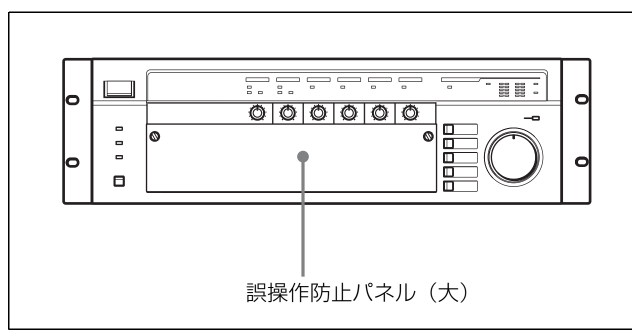
チューナーユニットを固定しているツメを横に引っぱりながら取り出します。



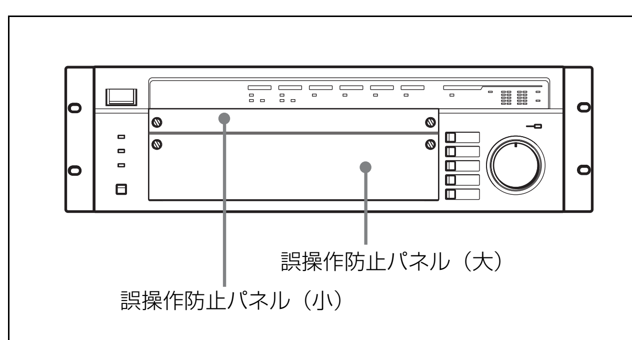
誤操作防止用パネルについて

SRP-X500P のフロントパネルには、大小 2 枚のパネルが装着されています。
システム調整時には、パネルを 2 枚とも外してください。
システムの調整が終わったら、誤操作を防ぐため、使いかたに応じてパネルを取り付けてください。

入力調節つまみを使用する場合



入力調節つまみを使用しない場合



ご注意

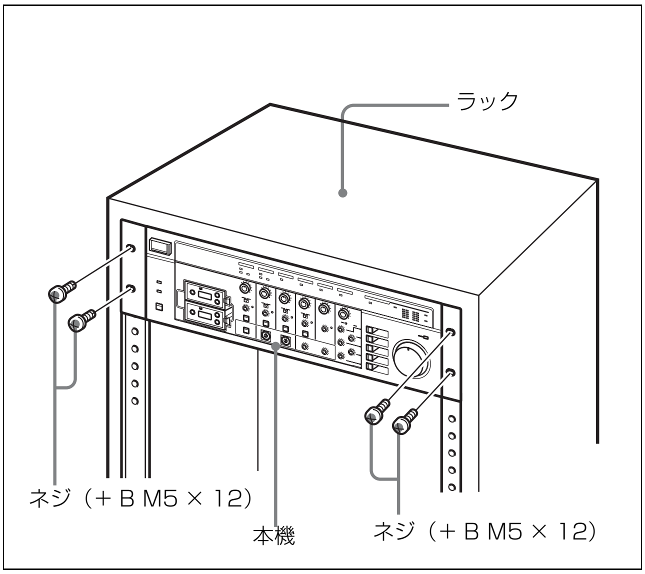
パネルを取り外す際は、誤操作防止パネル（小）から取り外してください。

本機をラックマウントする

ラックについて

本機を取り付けるラックは、EIA 規格 19 インチ標準ラックの奥行きが 450mm 以上あるものをお使いください。

ラックのネジ径に合ったネジ（有効長 12mm 以上）を 4 本使って、ラックに本体を取り付けてください。



ご注意

本機をラックマウントするときには、必ず 2 人以上で作業してください。

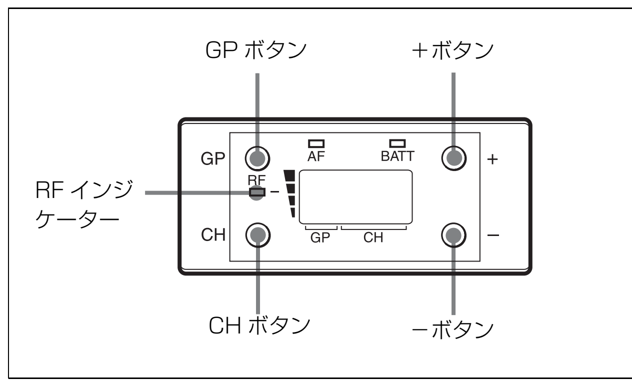
WRU-806 チャンネル設定方法

別売りのチューナーユニット WRU-806 は、B 型帯域 30 チャンネルのうち、グループ名 00 では 30 チャンネル、B-1 ～ B-4 では 6 チャンネル、B-5 では 5 チャンネル、B-6 チャンネルでは 1 チャンネルのうちから受信チャンネルを選択することができます。
なお、同じエリア内では同一グループの最大 6 チャンネルまで使用可能です。

チャンネルプラン

グループ名	00					
チャンネル名	B-11	B-21	B-31	B-41	B-51	B-61
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-52	
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-53	
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-54	
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-55	
	B-16	B-26	B-36	B-46		

グループ名	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
チャンネル名	B-11	B-21	B-31	B-41	B-51	B-61
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-52	
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-53	
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-54	
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-55	
	B-16	B-26	B-36	B-46		



1 SRP-X500P の電源を入れる。

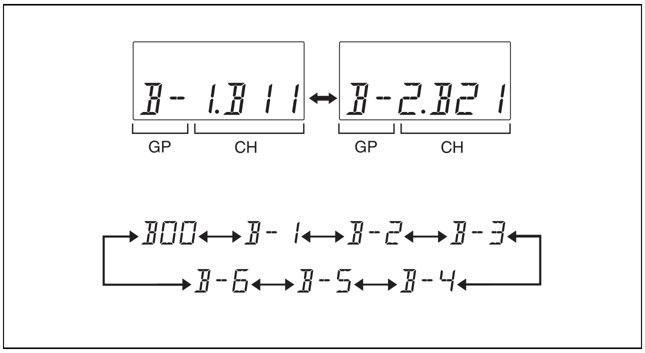
ディスプレイ部に「HELLO」のメッセージが表示され、電源を切る前に設定した表示となります。

2 GP ボタンを押したまま、＋または－ボタンを押してグループを選択する。

＋または－ボタンを押すたびに、下図の順にグループ表示が切り換わります。
押し続けると連続して切り換わります。

ご注意

＋ボタンだけを押すと、ディスプレイには、現在設定されている受信周波数が表示されます。
もう一度押して、グループ・チャンネル表示に戻してください。



CH 表示は、選択したグループで周波数の一番低いチャンネルになります。
両ボタンを離すと、自動的に選択モードが解除され、表示されているグループが設定されます。

3 CH ボタンを押したまま、3 秒以内に＋または－ボタンを押してチャンネルを選択する。

4 希望のチャンネルが表示されたら、CH ボタンと＋または－ボタンを離す。

選択したチャンネルが表示されます。

グループ / チャンネルのメモリーについて

上記の手順で選択、設定したグループ / チャンネルは、ディスプレイ部に表示されてから 1 秒後にメモリーされます。

同一エリア内で運用チャンネル数を増やすには

7 チャンネル同時運用のためのソニーオリジナルチャンネルプランが 2 つあります（下表）。
グループ 00 またはグループ B-1 ～ B-5 でチャンネルを設定してご使用ください。

プラン	1	2
チャンネル名	B-11	B-21
	B-12	B-31
	B-33	B-13
	B-52	B-14
	B-54	B-25
	B-36	B-16
	B-55	B-46

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- WRU-806 を同時に 2 台以上使用する場合は、同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。（00 グループ以外）

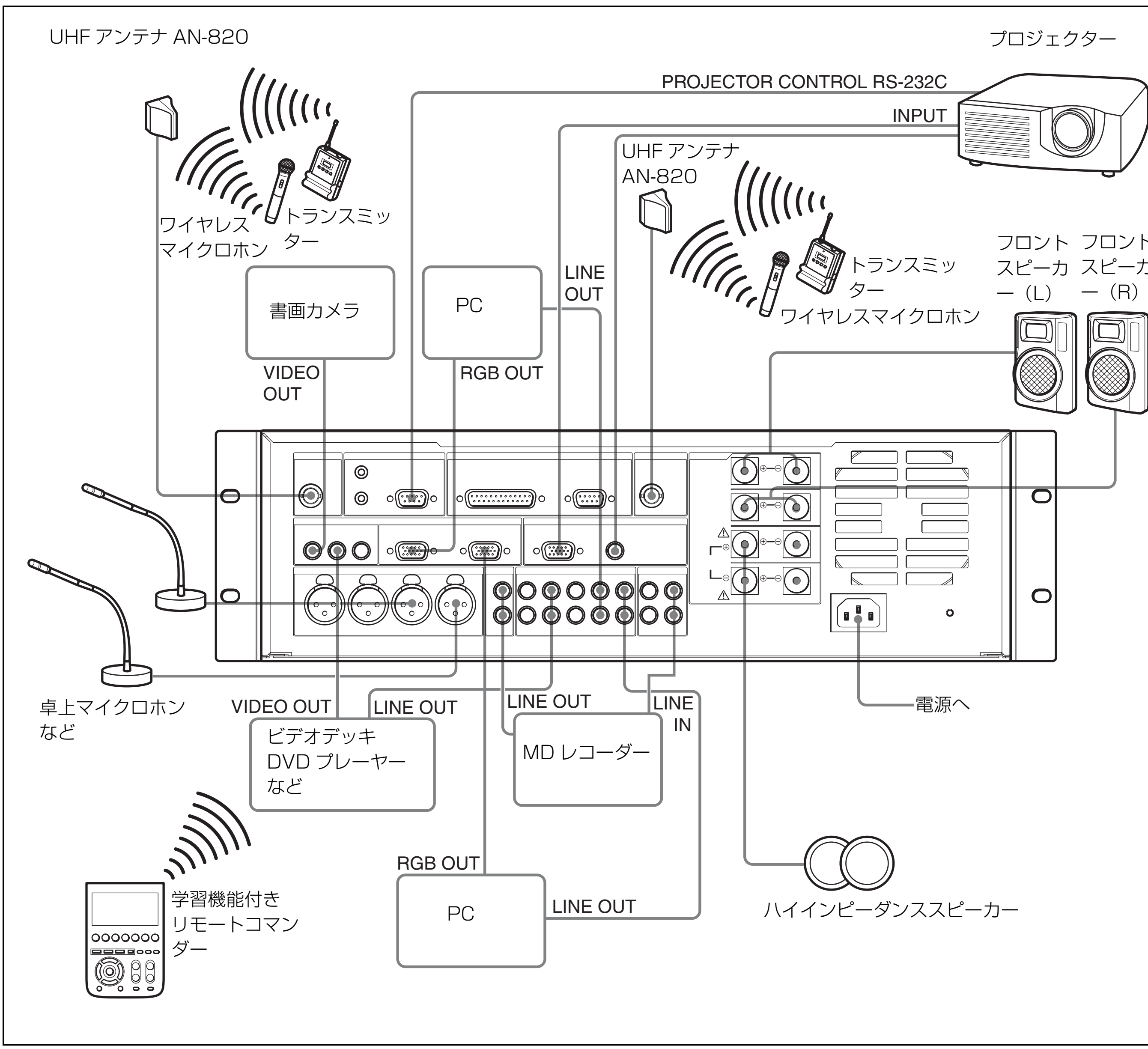
システム構成例とスピーカーの接続

ご注意

本章で記載されている周辺機器や関連機器は、すでに「生産完了」となっている場合があります。
機器の選定にあたっては、ソニーの営業担当者またはお買い上げ店にお問い合わせください。

工場出荷時設定を使用したシステム構成例

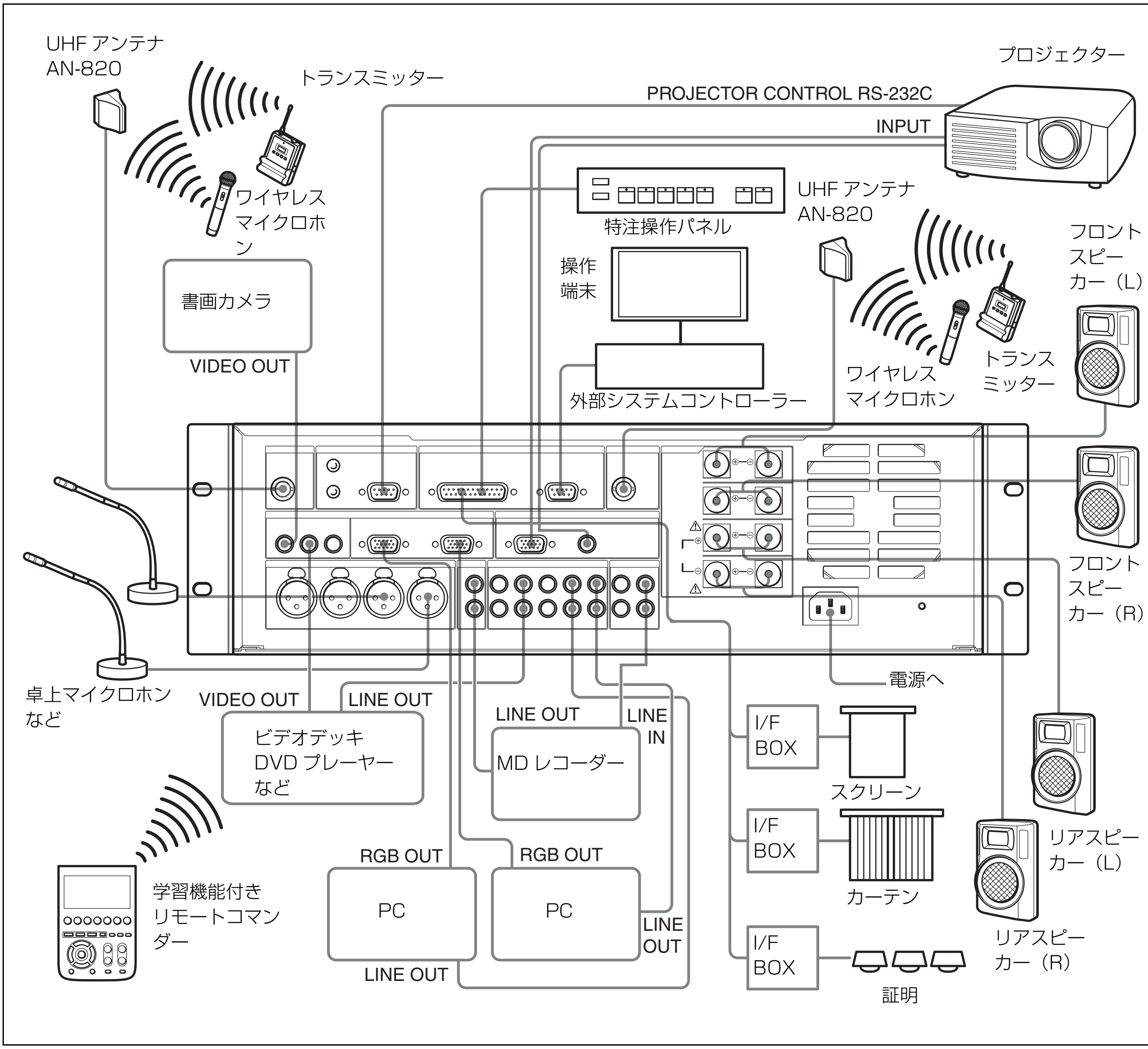
以下のシステム構成は、付属のソフトウェア SRP-X500P Manager で設定変更をしなくても本機をお使い頂けます。



- 本システムには、2 台の UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806 または 2 台のワイヤレスマイクロホンシステム UWP-X7/X8 のチューナーユニットを使用しています。
- MIC INPUT 3/4 端子にエレクトレットコンデンサーマイクロホンを接続して使用するときは、該当するチャンネルの＋48V ON/OFF スイッチを ON に合わせてください。

特注操作パネル・環境機器等を使用したシステム構成例

以下のシステム構成は、特注操作パネルから、または外部システムコントローラーから本機をリモートコントロールできます。



- 外部システムコントローラーから本機へコマンドを送信することによって、SRP-X500P 本体および接続された機器をコントロールできます。（システムコントローラー用のソフトウェアが別途必要です。）
- 本システムには、2 台の UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806 または 2 台のワイヤレスマイクロホンシステム UWP-X7/X8 のチューナーユニットを使用しています。
- MIC INPUT 3/4 端子にエレクトレットコンデンサーマイクロホンを接続して使用するときは、該当するチャンネルの＋48V ON/OFF スイッチを ON に合わせてください。
- REMOTE PARALLEL 端子経由でスクリーン、カーテン、照明灯の環境機器を制御する場合は、別途インターフェースボックス（I/F BOX）が必要になります。

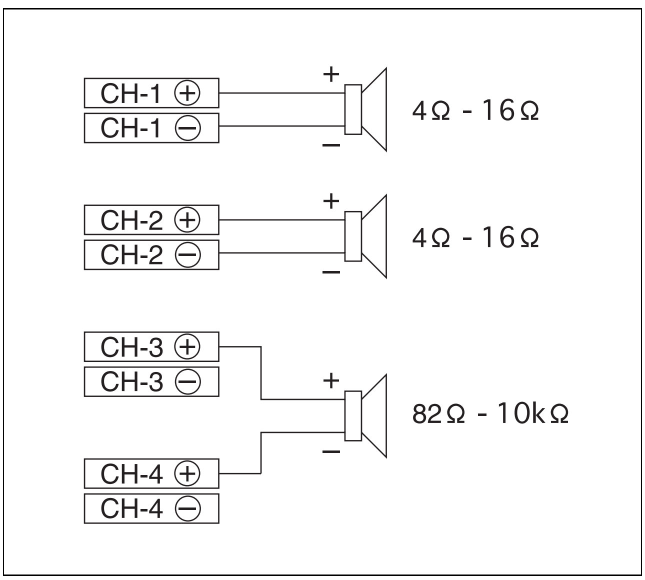
◆ 特注操作パネルや I/F BOX について詳しくは、「REMOTE PARALLEL 端子」（25 ページ）をご覧ください。

スピーカーの接続

本機の SPEAKER CH-1/2 端子に接続できるスピーカーは、ローインピーダンス（4 ～ 16Ω）です。
SPEAKER CH-3/4 端子には、フロントパネルの SYSTEM TYPE 選択スイッチの設定によって、ハイインピーダンススピーカーまたはローインピーダンススピーカーを接続することができます。
工場出荷時にはハイインピーダンススピーカーの設定になっています。

SPEAKER CH-3/4 端子にハイインピーダンススピーカーを接続するには

SYSTEM TYPE 選択スイッチを「1」または「4」に合わせます。
または、SYSTEM TYPE 選択スイッチを「0」にして、SRP-X500P Manager で設定します。
このとき、SPEAKER CH-3/4 端子からの出力はモノラルになりますので、下図のようにスピーカーの＋端子を SPEAKER CH-3 端子の＋端子（赤色）に、－端子を SPEAKER CH-4 端子の＋端子（赤色）に接続してください。

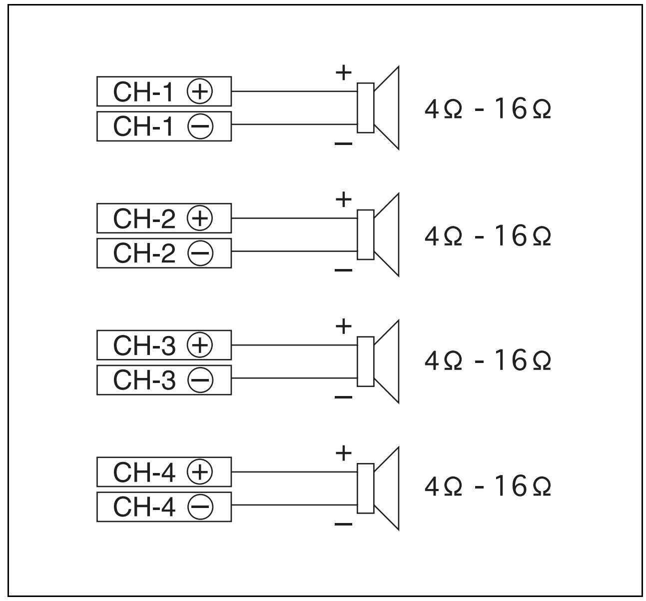


SPEAKER CH-3/4 端子にハイインピーダンススピーカーを接続する設定になっているときに接続可能なスピーカーの数は、下表の通りです。

スピーカーインピーダンス	スピーカー 1 個あたりに加わる電力	接続可能な数
1kΩ	5W	12
3.3kΩ	1.5W	40
10kΩ	0.5W	120

SPEAKER CH-3/4 端子にローインピーダンススピーカーを接続するには

SYSTEM TYPE 選択スイッチを「2」「5」「6」「7」「8」または「9」に合わせます。
または、SYSTEM TYPE 選択スイッチを「0」にして、SRP-X500P Manager で設定します。
下図のように接続してください。



SYSTEM TYPE の選択

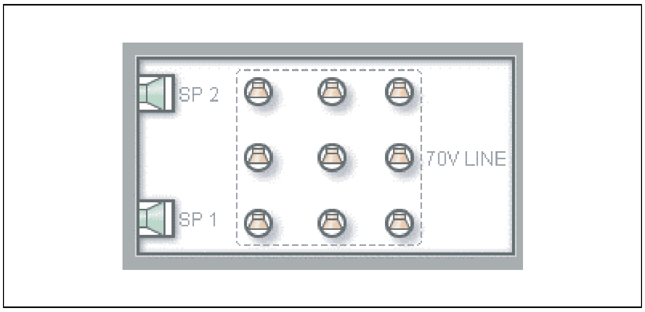
SYSTEM TYPE 選択スイッチで、使用する AV システムに応じたタイプを 1 ～ 9 の 9 種の中から選択する事ができます。
システムタイプにプリセットされている項目は下記の通りです。

- MIC INPUT Low Cut Filter
- ROUTING
- DELAY
- INPUT MUTING
- OUTPUT MUTING
- OUTPUT LINK
- COMPRESSOR
- SPEAKER CH-3/4 端子の設定（70V LINE または Lo.Imp）
- REMOTE FADER

各システムタイプの説明は以下の通りです。

SYSTEM TYPE 1

フロントスピーカーと、ハイインピーダンス（70V LINE）の天井スピーカーを組み合わせたシステム用です。



フロントスピーカーから AV ソースの音をステレオ出力し、マイクロホンの音は明瞭度を上げるため、天井スピーカーから出力します。

・入出力

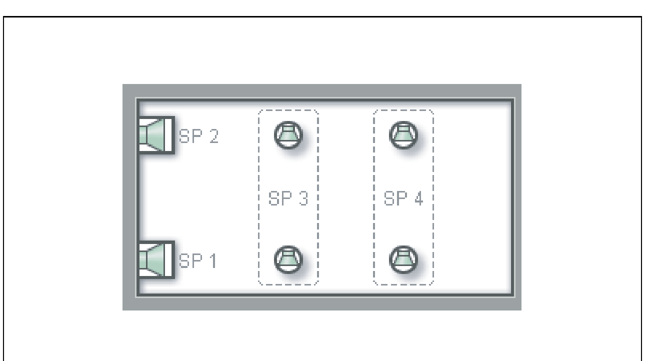
		SPEAKERS			LINE OUT			
		SP 1	SP 2	70V LINE (SP 3-4)	CH-1	CH-2	CH-3	CH-4
MIC IN	ON/OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN L	ON/OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN R	ON/OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN L	ON/OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN R	ON/OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB

・DELAY

距離補正はされません。

SYSTEM TYPE 2

フロントスピーカーと、ローインピーダンス（Lo imp.）の天井スピーカーを組み合わせたシステム用です。



フロントスピーカーから AV ソースの音をステレオ出力し、マイクロホンの音はハウリングを避けるため天井スピーカーから出力します。

・入出力

		SPEAKERS				LINE OUT			
		SP 1	SP 2	SP 3	SP 4	CH-1	CH-2	CH-3	CH-4
MIC IN	ON/OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN L	ON/OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN R	ON/OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN L	ON/OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN R	ON/OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB

・DELAY

距離補正はされません。

SYSTEM TYPE 3

フロントスピーカーのみを使用したシステム用です。



フロントスピーカーから AV ソースの音とマイクロホンの音を出力します。

・入出力

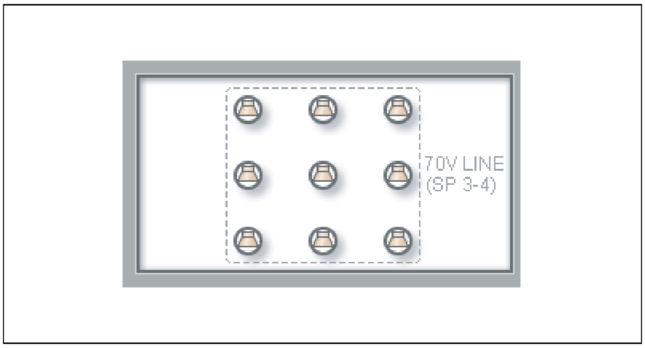
		SPEAKERS				LINE OUT			
		SP 1	SP 2	SP 3	SP 4	CH-1	CH-2	CH-3	CH-4
MIC IN	ON/OFF	ON	ON	–	–	ON	ON	ON	ON
	LEVEL	0dB	0dB	–	–	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN L	ON/OFF	ON	OFF	–	–	ON	OFF	OFF	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	–	–	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN R	ON/OFF	OFF	ON	–	–	OFF	ON	OFF	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	–	–	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN L	ON/OFF	ON	OFF	–	–	ON	OFF	ON	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	–	–	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN R	ON/OFF	OFF	ON	–	–	OFF	ON	OFF	ON
	LEVEL	0dB	0dB	–	–	0dB	0dB	0dB	0dB

・DELAY

距離補正はされません。

SYSTEM TYPE 4

ハイインピーダンス（70V LINE）の天井スピーカーのみを使用したシステム用です。



天井スピーカーから AV ソースの音（モノラル出力）とマイクロホンの音を出力します。

・入出力

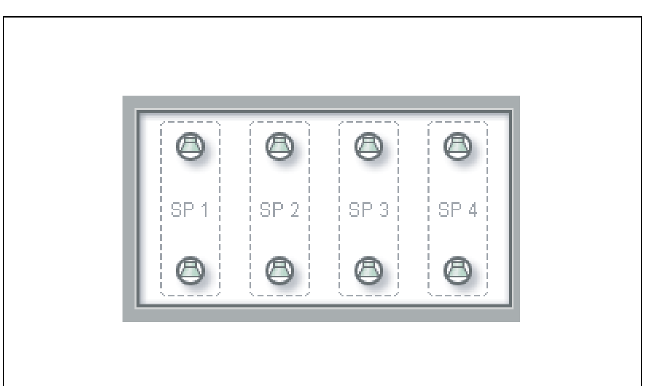
		SPEAKERS			LINE OUT			
		SP 1	SP 2	70V LINE (SP 3-4)	CH-1	CH-2	CH-3	CH-4
MIC IN	ON/OFF	–	–	ON	ON	ON	ON	ON
	LEVEL	–	–	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN L	ON/OFF	–	–	ON	ON	OFF	OFF	OFF
	LEVEL	–	–	-3dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN R	ON/OFF	–	–	ON	OFF	ON	OFF	OFF
	LEVEL	–	–	-3dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN L	ON/OFF	–	–	ON	ON	OFF	ON	OFF
	LEVEL	–	–	-3dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN R	ON/OFF	–	–	ON	OFF	ON	OFF	ON
	LEVEL	–	–	-3dB	0dB	0dB	0dB	0dB

・DELAY

距離補正はされません。

SYSTEM TYPE 5

ローインピーダンス（Lo imp.）の天井スピーカーのみを使用したシステム用です。



天井スピーカーから AV ソースの音（モノラル出力）とマイクロホンの音を出力します。

SPEAKER OUT つまみで調節して、SPEAKERS CH-1/2 と CH-3/4 の音量を同じにしてください。

・入出力

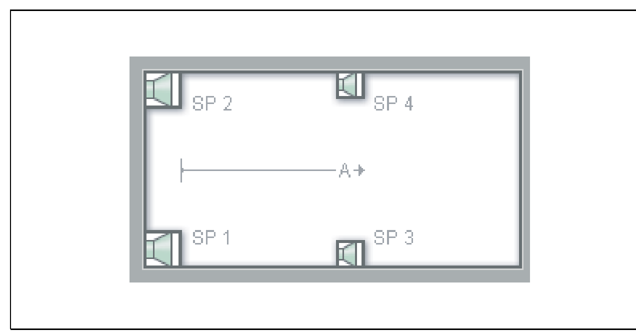
		SPEAKERS				LINE OUT			
		SP 1	SP 2	SP 3	SP 4	CH-1	CH-2	CH-3	CH-4
MIC IN	ON/OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN L	ON/OFF	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF
	LEVEL	-3dB	-3dB	-3dB	-3dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN R	ON/OFF	ON	ON	ON	ON	OFF	ON	OFF	OFF
	LEVEL	-3dB	-3dB	-3dB	-3dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN L	ON/OFF	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	ON	OFF
	LEVEL	-3dB	-3dB	-3dB	-3dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN R	ON/OFF	ON	ON	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON
	LEVEL	-3dB	-3dB	-3dB	-3dB	0dB	0dB	0dB	0dB

・DELAY

距離補正はされません。

SYSTEM TYPE 6 ～ 9

フロントスピーカーと、ローインピーダンス（Lo imp.）のサテライトスピーカーを使用したシステム用です。



フロントスピーカーとサテライトスピーカーの両方から、AV ソースの音とマイクロホンの音を出力します。

・入出力

		SPEAKERS				LINE OUT			
		SP 1	SP 2	SP 3	SP 4	CH-1	CH-2	CH-3	CH-4
MIC IN	ON/OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN L	ON/OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
LINE IN R	ON/OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN L	ON/OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB
AV/RGB IN R	ON/OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON
	LEVEL	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB	0dB

・DELAY

SYSTEM TYPE 6：距離補正の必要がないとき

SYSTEM TYPE 7：5m ～ 8m/16.7 feet ～ 26.7 feet
SYSTEM TYPE 8：8m ～ 11m/26.7 feet ～ 36.7 feet
SYSTEM TYPE 9：11m ～ 14m/36.7 feet ～ 46.7 feet

		SPEAKERS			
		SP 1	SP 2	SP 3	SP 4
SYSTEM TYPE 6	ON/OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
	TIME	0ms	0ms	0ms	0ms
SYSTEM TYPE 7	ON/OFF	OFF	OFF	ON	ON
	TIME	0ms	0ms	34.6ms	34.6ms
SYSTEM TYPE 8	ON/OFF	OFF	OFF	ON	ON
	TIME	0ms	0ms	43.3ms	43.3ms
SYSTEM TYPE 9	ON/OFF	OFF	OFF	ON	ON
	TIME	0ms	0ms	52.0ms	52.0ms

＜ SYSTEM TYPE 詳細＞

- MIC INPUT Low Cut Filter（全 SYSTEM TYPE 共通）
  ON に設定されています。
  カットオフ周波数：100Hz、-12 d B/oct
- INPUT MUTING（全 SYSTEM TYPE 共通）
  MUTING 解除に設定されています。
  使用しない INPUT チャンネルは INPUT ボリュームを絞って使用してください。
- OUTPUT LINK
  ステレオ出力のシステムでは LR が LINK に設定されています。
  L、R の出力レベルは常に同一です。
- COMPRESSOR（全 SYSTEM TYPE 共通）

FUNCTION ON / OFF	ON
THRESHOLD	10dB
RATIO	∞ :1
ATTACK	0.47ms
RELEASE	100ms

- REMOTE FADER
  SYSTEM TYPE によって異なります。
  SRP-X500P Manager ユーザーガイドをご覧ください。

プリセットにより固定されている項目を変更するには、SYSTEM TYPE 選択スイッチを「0」に合わせて、SRP-X500P Manager で各項目を設定します。

ハウリングを抑制する

FEED BACK REDUCER ボタンを使って、ハウリングが発生する周波数をあらかじめ検出し、5 バンドのイコライザーでその周波数のゲインを下げることによってハウリングを抑制することができます。

ハウリングが発生する周波数を検出するには

次の手順でマイクとパワーアンプの設定を行うことで、より正確にハウリングを抑制することができます。

1 マイクの基準入力レベルを設定する。

通常話す程度の声の大きさでマイクに向かって話しながら、本体フロントパネルの TRIM つまみを操作します。REF インジケーターがときどき点灯するように調整します。

ご注意
ワイヤレスマイクをご使用の場合は、ワイヤレスマイクのアッテネーターで調整してください。

2 ボリューム位置を決定する。

本体フロントパネルの INPUT ボリュームつまみ、MASTER ボリュームを 0 dB に設定します。

3 マイクを設置する。

マイクを通常使う設置場所に置いて、向きも調整します。

4 スピーカー出力を設定する。

各フロントパネルの SPEAKER OUTPUT つまみを少しずつ上げて行き、部屋全体で聞きやすいで聞き取りやすい音量に調整します。使用しないチャンネルの SPEAKER OUTPUT つまみは、－∞ d B に設定します。

5 ハウリング周波数を検出する。

ハウリングを抑制したいマイク入力に対応する FEED BACK REDUCER ボタンを 2 秒以上押したままにすると、ボタンのインジケーターが点滅し、ハウリング周波数の検出が始まります。

6 設定完了

ボタンのインジケーターが点灯になれば設定完了です。

ご注意
- 検出中は、ハウリングと同様の音が発生します。あまり大きな音がする場合は、FEED BACK REDUCER ボタンを押して一度キャンセルし、SPEAKER OUT つまみを少し下げて、再度検出を行ってください。

- ハウリング周波数検出中は、声を出したり音をたてたりしないようにしてださい。ハウリング周波数の誤検出の原因となることがあります。
- AGC を使用する場合は、SRP-X500P Maneger で AGC 設定後、ハウリング周波数の検出を行ってください。

制御

ここでは、本機の制御端子の使いかたと、別売りの学習リモコンに本機の機能を学習させる方法について説明しています。

ご注意

本章で記載されている周辺機器や関連機器は、すでに「生産完了」となっている場合があります。
機器の選定にあたっては、ソニーの営業担当者またはお買い上げ店にお問い合わせください。

PROJECTOR CONTROL RS-232C 端子

PROJECTOR CONTROL RS-232C 端子は、RS-232C 端子を装備したプロジェクターやモニターディスプレイを制御するための端子です。
RS-232C 端子経由で本機とプロジェクターやモニターディスプレイを接続すると、電源の ON/STANDBY と入力信号の切り換えを本機の動作と連動させることができます。

接続するプロジェクターの機種に応じて、下表のように本機の PROJECTOR PROTOCOL 選択スイッチを設定します。工場出荷状態では、AV/RGB の D、E 端子の映像方式は RGB に設定されています。

◆ 設定を変更する場合は、SRP-X500P Manager のユーザーガイドをご覧ください。

機種名	PROJECTOR PROTOCOL 選択スイッチの設定	プロジェクターの RGB 入力端子
VPL-FH300/FW300	1	INPUT C
VPL-FE40/FX40	2	INPUT C
VPL-CW125	3	INPUT A
VPL-CX100 シリーズ	4	INPUT A
VPL-EW5/EX50/EX5	5	INPUT A
VPL-FX52	6	INPUT C
GXD-L52H1	7	RGB/COMPONENT
FWD-50PX3	8	RGB/COMPONENT
空き	9、B ～ F	–

ご注意

- 本機とプロジェクターの接続には、プロジェクターの仕様に合わせたケーブルを使用してください。

• 本機でプロジェクターを制御する場合は、プロジェクターのスマート APA およびオート入力サーチをオフに設定してください。
• 上記以外のプロジェクターを使用するときは、PROJECTOR PROTOCOL 選択スイッチを「0」に合わせて、SRP-X500P Manager で設定を行います。
• VPL-PX15 の制御は、CONTROL S 端子を使用して行います。詳しくは、「PROJECTOR CONTROL CONTROL S IN/OUT 端子」（25 ページ）をご覧ください。

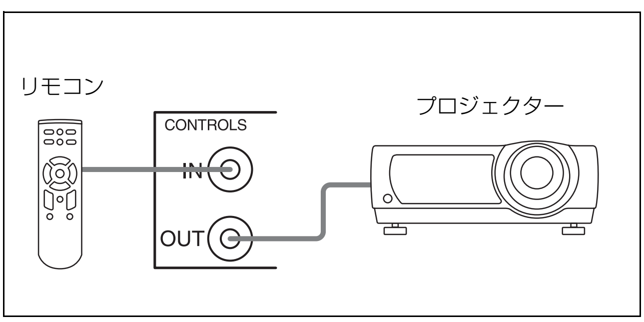
PROJECTOR CONTROL CONTROL S IN/OUT 端子

この端子は、LCD データプロジェクター VPL-PX15 の制御専用です。
下表のように本機の PROJECTOR PROTOCOL 選択スイッチを設定します。

機種名	PROJECTOR PROTOCOL 選択スイッチの設定	プロジェクターの RGB 入力端子
VPL-PX15	A	INPUT A

PROJECTOR CONTROL CONTROL S IN/OUT 端子経由で本機とプロジェクターを接続すると、電源の ON/STANDBY と入力信号の切り換えを本機の動作と連動させることができます。また、プロジェクターに付属のワイヤードリモコンを本機の CONTROL S IN 端子に接続することで、本機を通じてプロジェクターの設定等をすることができます。

下図のように、プロジェクターとプロジェクターに付属のワイヤードリモコンを接続してください。



ご注意
• 電源供給の都合上、リモコンの接続にはステレオミニプラグ付きコードをお使いください。リモコンに電池を入れて使うときには、ミニプラグ付きコードで接続してください。
• 本機でプロジェクターを制御する場合、プロジェクターのスマート APA およびオート入力サーチをオフにしてください。
• プロジェクターとプロジェクターに付属のワイヤードリモコンを本機に上図のように接続すると、リモコン受光部は動作しなくなり、リモコンからのコマンドは本機の CONTROL S IN/OUT 端子を経由してプロジェクターに出力されます。また、リモコンからの操作よりも本機からの制御が優先されます。
• CONTROL S IN/OUT 端子を使った本機からのプロジェクター制御には、以下の制限があります。
  – VIDEO A/B/C 端子に接続されている機器からの信号はコンポジット出力のみとなります
  – COMPONENT/RGB D/E 端子に接続されている機器からの信号は RGB またはコンポーネント出力のいずれか一方の映像方式を使用できます。あらかじめプロジェクター側の入力信号の設定を切り換えておいてください。
  – SRP-X500P Manager を使用して映像方式を OTHER TERMINAL に設定すると、プロジェクターの INPUT B 入力を選択します。

REMOTE RS-232C 端子

SRP-X500P Manager をインストールしたパソコンを接続して本機の設定を行うことができます。また、外部システムコントローラーから本機を制御できます。
この端子の仕様と通信フォーマットは、以下の通りです。

仕様

端子形状：D-sub 9 ピン（凸）インチネジタイプ
電気的仕様：RS-232C 規格準拠
推奨ケーブル：データ通信用多芯シールドケーブル
ケーブル長：15m 以下

通信フォーマット

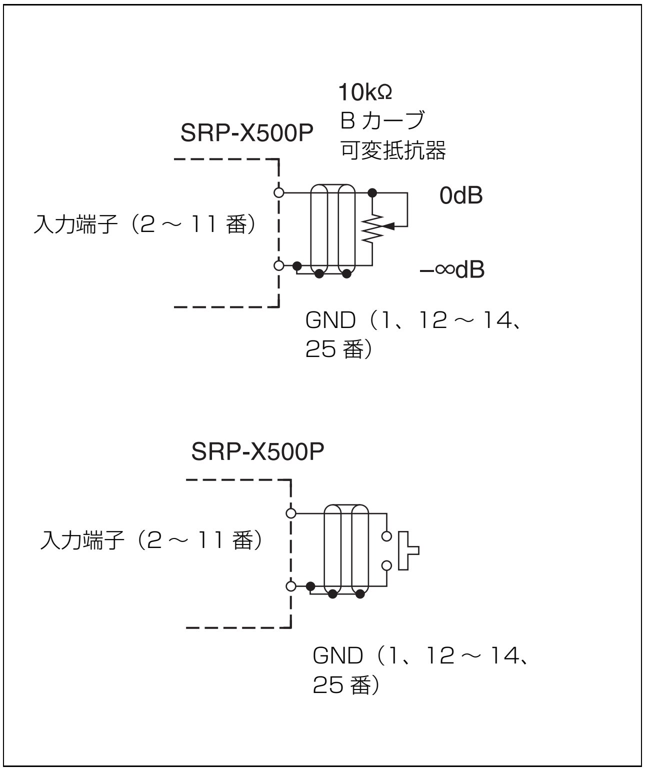
ボーレート：38400bps
ビット長：8 ビット
ストップビット：1 ビット
パリティー：ODD（奇数）

ご注意
本機とパソコンの接続には、クロスケーブルを使用してください。

REMOTE PARALLEL 端子

この端子にスイッチやボリュームコントローラーなどの簡単な回路を接続することにより、本機を操作することができます。
この端子の仕様は以下の通りです。
端子形状：D-sub 25 ピン（凹）
推奨ケーブル：データ通信用多芯シールドケーブル
ケーブル長：50m 以下

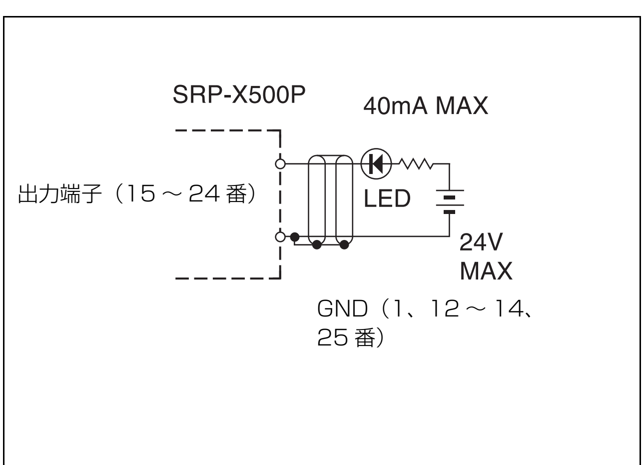
入力ピンに接続する回路の例



ボリュームを接続することにより、下記の操作が可能です。
- REMOTE FADER の音量調節

メイク接点により下記の操作が可能です。
- AV/RGB 入力選択
- ミューティング
- シーンリコール
- 音量調整（マスターボリュームの Up/Down ）
- プロジェクターの電源 ON/STANDBY
- 非常放送設備によるミューティング

出力ピンに接続する回路の例



端子の各ピンが ON になる条件は、下記より選択できます。
- AV/RGB SELECT ボタンの状態
- MASTER MUTING インジケーターの点灯
- シーンリコールの状態
- プロジェクターの電源 ON/STANDBY 命令の発生
- MASTER 調節つまみと REMOTE FADER の状態（MAX/MIN/ ミューティング）
- 非常放送設備によるミューティングの状態

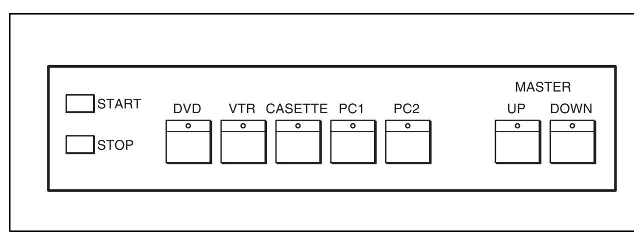
以上の条件は、SRP-X500P Manager の REMOTE タブの FUNCTION 選択で設定します。

ご注意
- 出力端子に逆電圧をかけないでください。
- リモート線のシールドおよび GND 線を中継板等へ接続しないでください。誤動作、ノイズ等の原因となります。
- リモート線は必ず調光器、電動機等を避けて配線してください。

REMOTE PARALLEL 端子に接続する特注操作パネルの例

工場出荷設定値のままの REMOTE PARALLEL 端子は、以下のような特注操作パネルを接続する想定になっています。

◆ REMOTE PARALLEL 端子の機能変更について詳しくは、SRP-X500P Manager ユーザーガイドをご覧ください。



START ボタン
プロジェクターの電源を ON にしてスクリーンを下ろし、カーテンを閉め、照明を暗くして、プレゼンテーションを開始できる状態にします。

STOP ボタン
プロジェクターの電源を STANDBY 状態にして、スクリーンを上げ、カーテンを開け、照明を明るくして、プレゼンテーションを終了できる状態にします。

セレクター部
AV/RGB INPUT 映像／音声入力端子に接続された機器から、ひとつを選択します。

MASTER UP ボタン
マスターボリュームを上げます。

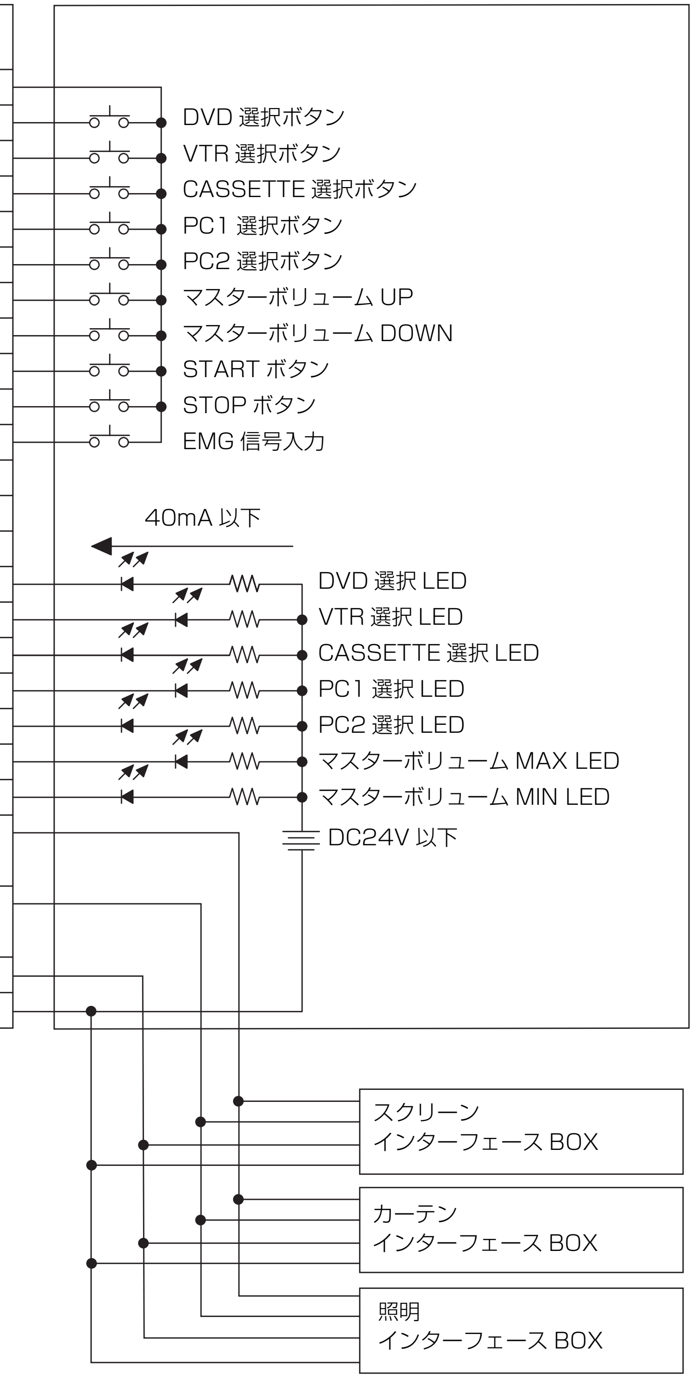
MASTER DOWN ボタン

マスターボリュームを下げます。

EMG

非常放送設備からの信号を受けて、全ての音声出力をミューティングします。

ピン番号	端子名	機能名
1	GND	GND
2	INPUT 1	DVD 選択
3	INPUT 2	VTR 選択
4	INPUT 3	CASETTE 選択
5	INPUT 4	PC 1 選択
6	INPUT 5	PC 2 選択
7	INPUT 6	マスターボリューム Up
8	INPUT 7	マスターボリューム Down
9	INPUT 8	START
10	INPUT 9	STOP
11	INPUT 10	EMG
12	GND	GND
13	GND	GND
14	GND	GND
15	OUTPUT 1	DVD 選択タリー
16	OUTPUT 2	VTR 選択タリー
17	OUTPUT 3	CASETTE 選択タリー
18	OUTPUT 4	PC 1 選択タリー
19	OUTPUT 5	PC 2 選択タリー
20	OUTPUT 6	マスターボリューム 最大タリー
21	OUTPUT 7	マスターボリューム 最小タリー
22	OUTPUT 8	スクリーン 降、カーテン 閉、照明 暗
23	OUTPUT 9	スクリーン 昇、カーテン 開、照明 明
24	OUTPUT 10	EMG タリー
25	GND	GND



環境機器インターフェイス BOX の使用における注意点

- REMOTE PARALLEL 端子の出力ピンは、オルタネート動作です。よって、環境機器の操作を行う場合、環境機器の動作状態に関係なく出力ピンが ON し続けますので、上げ止まり、下げ止まり時のモーター停止などはインターフェイス BOX にて行ってください。
- インターフェイス BOX を製作する際は、EMG タリー（OUTPUT10 から出力される）が出力されると、スクリーン、カーテンの動作が停止し、照明が明るくなるようにしてください。

学習リモコンに本機の機能を学習させる

別売りの学習機能付きリモートコマンダー（RM-AV3000U など）に、本機の機能を学習させることができます。
学習させることのできる機能は以下の通りです。

- AV RGB SELECT ボタンの機能
- PROJECTOR POWER スイッチの機能
- MASTER 調節つまみの機能
  －音量を上げる
  －音量を下げる
  －ミューティングする

◆ 学習のさせかたについては、リモートコマンダーに付属の取扱説明書も参考にしてください。

1 IR OUTPUT MODE ボタンを 2 秒以上押したままにする。

ボタンが緑色に、およびリモコン受発光部が赤色に点灯し、本機のリモコン受発光部からコマンドが出力される状態になります。
このとき、本機から音声および映像は出力されなくなります。

2 学習させたい機能によって次のように本機を操作し、出力するコマンドを選択する。

AV/RGB SELECT ボタンの機能を学習させるには
学習させたい AV/RGB SELECT ボタンを押して点灯させる。

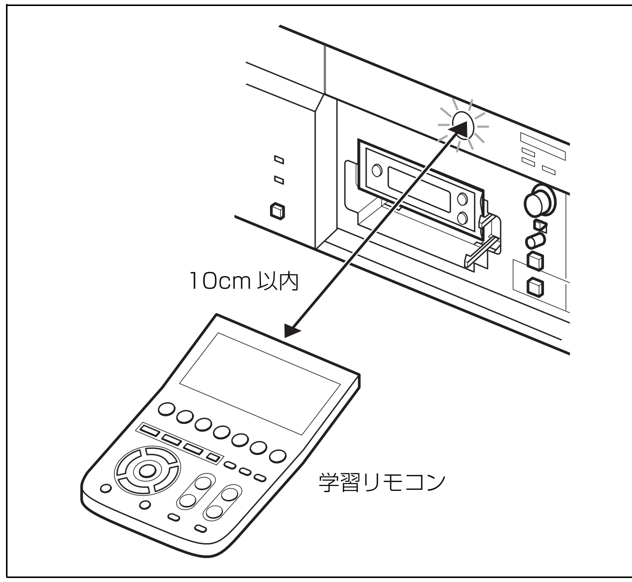
PROJECTOR POWER スイッチの機能を学習させるには
PROJECTOR POWER スイッチを押して点灯させる。

音量を上げる機能を学習させるには
MASTER 調節つまみを 11 時方向に合わせます。
MASTER MUTING インジケーターが点灯します。

音量を下げる機能を学習させるには
MASTER 調節つまみを 9 時方向に合わせます。
MASTER MUTING インジケーターが点灯します。

音量をミューティングする機能を学習させるには
MASTER 調節つまみを－∞に合わせます。MASTER MUTING インジケーターが点灯します。

3 学習リモコンの先端と本機のリモコン受発光部を向かい合わせに置き、学習リモコンをコマンド学習可能な状態にセットする。



4 IR OUTPUT MODE ボタンを押す。

ボタンおよびリモコン受発光部が点滅し、本機のリモコン受発光部からコマンドが出力されます。

5 リモコンの学習が完了したら、IR OUTPUT MODE ボタンをもう一度押す。

ボタンが点灯し、リモコン受発光部からのコマンド出力が止まります。

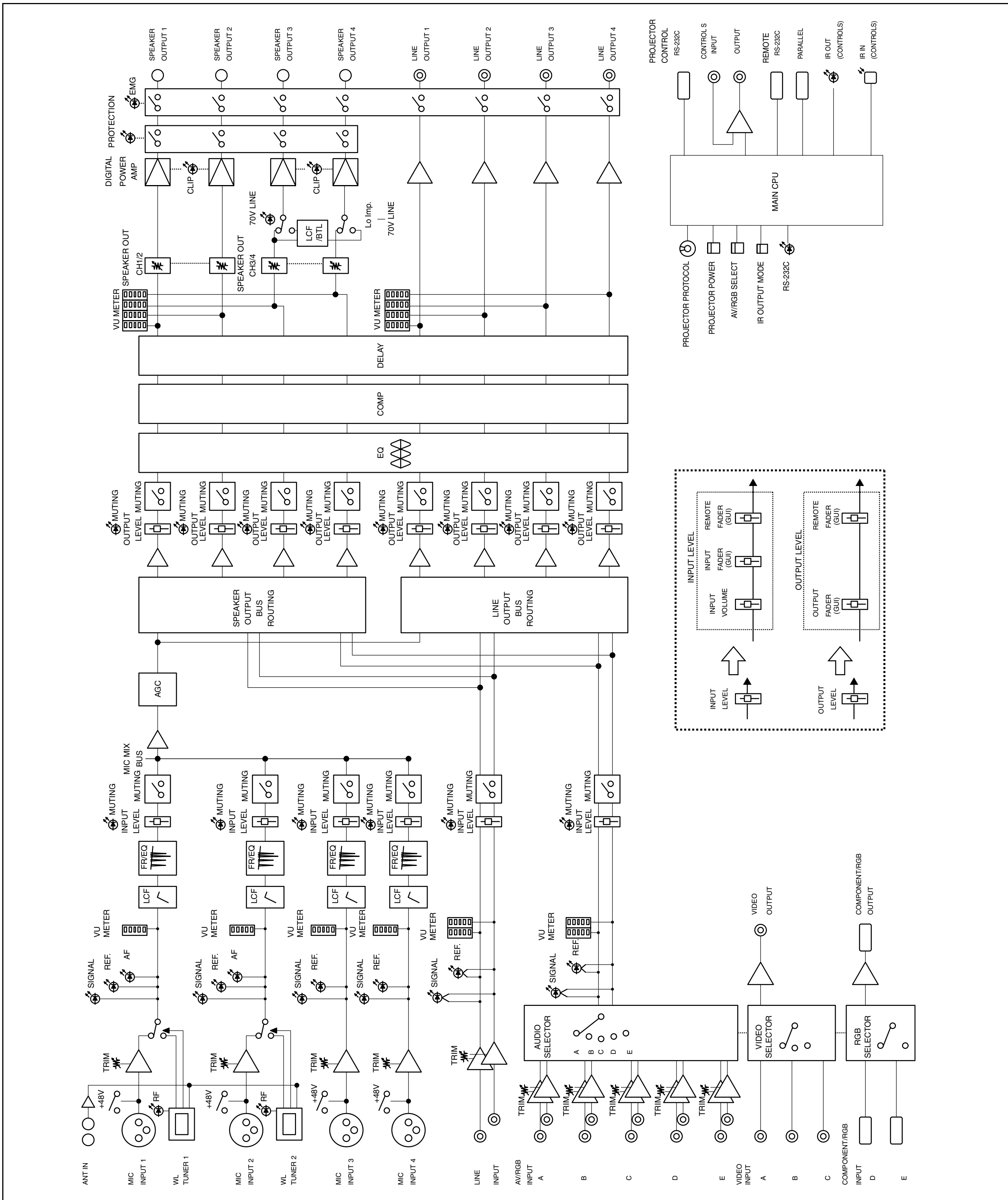
6 他に学習させたい機能がある場合は、手順 2 からを繰り返す。

7 IR OUTPUT MODE ボタンを 2 秒以上押したままにする。

ボタンおよびリモコン受発光部が消灯し、本機は通常の状態に戻ります。
正しく学習できているかどうか、リモコンを操作して確認してください。学習できていない場合は、もう一度手順 1 からやり直してみてください。

付録

ブロックダイヤグラム



主な仕様

システム

オーディオ

周波数特性	20Hz ～ 20kHz ± 0.5dB（LINE OUTPUT、1kHz 基準）
全高調波歪み率	0.01% 以下 （LINE OUTPUT、1kHz）
S/N 比	94dB 以上 （LINE OUTPUT、IHF-A）
クロストーク	− 80dB 以下（LINE、Ch 間、1kHz、入力ショート）

0dBu = 0.775Vrms

ビデオ

周波数特性	50Hz ～ 10MHz

COMPONENT/RGB

周波数特性	50Hz ～ 150MHz 480p、1080i、 1280 × 1024 60Hz （SXGA）対応

音声入力端子

MIC INPUT 1 ～ 4

端子形状	XLR-3-31 タイプ
回路	平衡
基準入力レベル	− 60 ～− 30dBu
最大入力レベル	− 37 ～− 7dBu
インピーダンス	2.2kΩ 以上

LINE IN/AV RGB INPUT A ～ E

端子形状	ピンジャック
回路	不平衡
基準入力レベル	− 30 ～ 0dBu
最大入力レベル	＋ 10dBu
インピーダンス	10kΩ 以上

音声出力端子

LINE OUTPUT 1 ～ 4

端子形状	ピンジャック
回路	不平衡
基準出力レベル	− 5dBu
最大出力レベル	＋ 15dBu
負荷インピーダンス	10kΩ 以上

SPEAKERS CH-1/2

端子形状	ネジ式ターミナル
最大出力（JEITA）	90W（4Ω、8Ω）
負荷インピーダンス	4Ω ～ 16Ω

SPEAKERS CH-3/4

端子形状	ネジ式ターミナル
最大出力（JEITA）	Lo imp. 選択時：50W（4Ω、8Ω） 70V LINE 選択時：60W（82Ω）
負荷インピーダンス	Lo imp. 選択時：4Ω ～ 16Ω 70V LINE 選択時：82Ω ～ 10kΩ

映像入力端子

AV RGB INPUT VIDEO A ～ C

端子形状	ピンジャック
信号形式	コンポジット
レベル	1Vp-p
インピーダンス	75Ω

AV RGB INPUT COMPONENT RGB D/E

端子形状	HD D-sub 15 ピン（凹）
信号形式	RGB ／コンポーネント
レベル	映像信号：0.7Vp-p 同期信号：1 ～ 5V
インピーダンス	映像信号：75Ω 同期信号：47kΩ

映像出力端子

OUTPUT COMPONENT/RGB

端子形状	HD D-sub 15 ピン（凹）
信号形式	RGB ／コンポーネント
レベル	映像信号：0.7Vp-p 同期信号：1 ～ 5V
インピーダンス	映像信号：75Ω 同期信号：47kΩ

OUTPUT VIDEO

端子形状	ピンジャック
信号形式	コンポジット
レベル	1Vp-p
インピーダンス	75Ω

リモート端子

PROJECTOR CONTROL

RS-232C　D-sub 9 ピン（凸）

CONTROL S IN/OUT
　ミニジャック

REMOTE

PARALLEL　D-sub 25 ピン（凹）

IN：　メーク接点入力
　Logic : C-MOS LEVEL アクティブ L
　入力パルス幅：100msec 以上

OUT：　オープンコレクタ出力
　耐電圧：＋ 24V 以下
　最大シンク電流：40mA

RS-232C　D-sub 9 ピン（凸）

その他の端子

ANT IN a/b 端子
　BNC　DC+9V を給電

＋ 48V 電源　MIC INPUT1 ～ 4　XLR 端子へ給電
　（＋ 48V ON/OFF スイッチが ON 時）

一般

電源　AC100V、50/60Hz

消費電力　110W

外形寸法　482 × 132 × 357mm（幅／高さ／奥行き）突起部含まず

質量　約 12kg

動作温度　0 ℃～ 40 ℃

保存温度　－ 20 ℃～ 60 ℃

付属品　電源コード（1）
　フット（4）
　CD-ROM（1）
　取扱説明書（1）
　保証書（1）
　ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内（1）

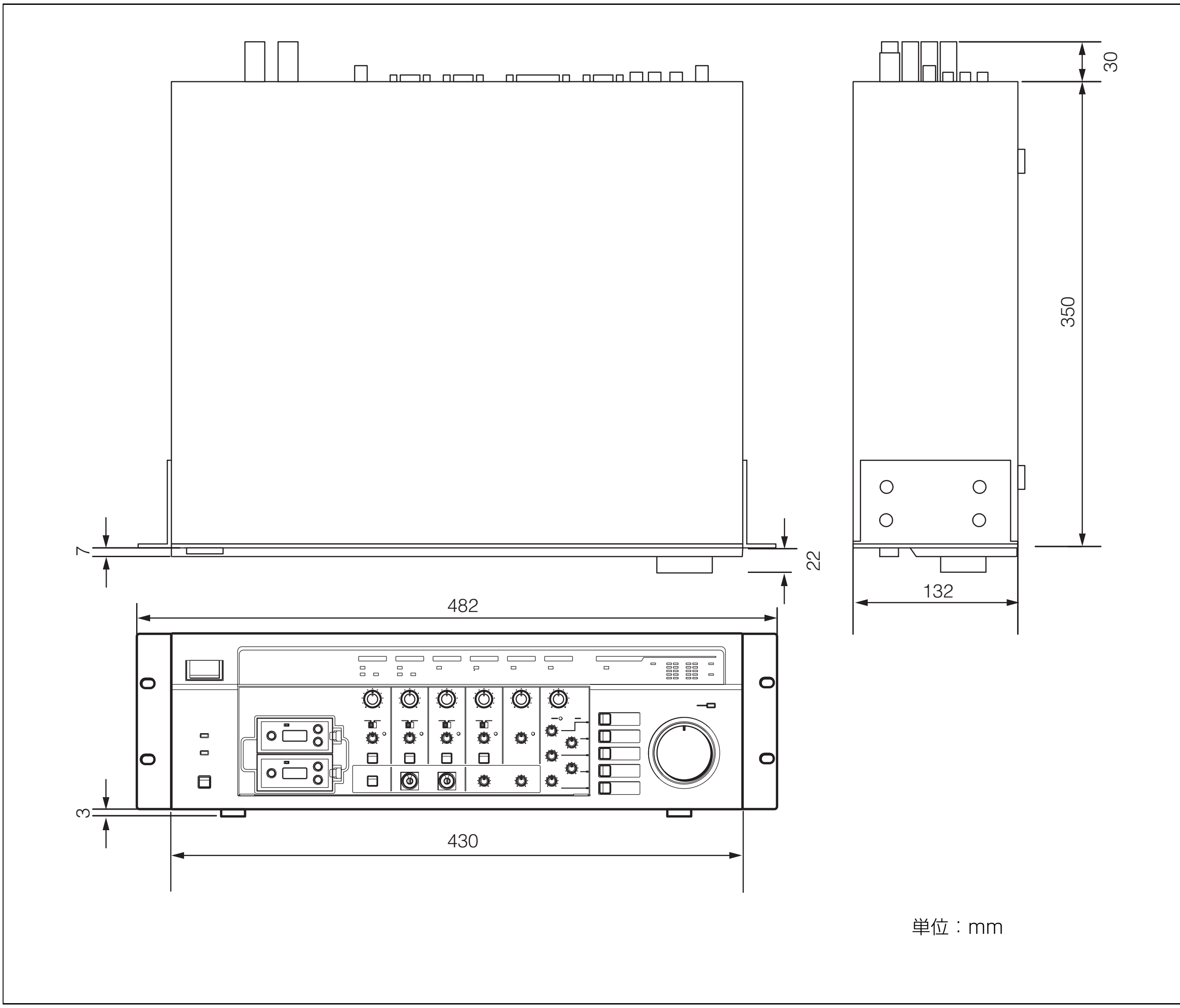
別売アクセサリー
　UHF アンテナ AN-820
　UHF シンセサイザーチューナーユニット WRU-806
　ワイヤレスマイクロホンシステム UWP-X7/X8

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「高調波電流規格 JIS C 6100-3-2 適合品」です。

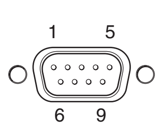
お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

寸法図



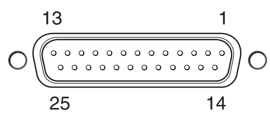
コネクターの仕様

PROJECTOR CONTROL RS-232C 端子／ REMOTE RS-232C 端子



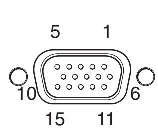
ピン番号	信号	機能
1	FG	フレーム接地
2	RD	受信データ
3	TD	送信データ
4	ER	未接続
5	SG	信号線グランド
6	DR	未接続
7	RS	未接続
8	CS	未接続
9	N.C	未接続

REMOTE PARALLEL 端子



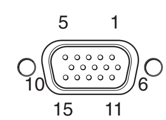
ピン番号	機能
1	GND
2	INPUT 1
3	INPUT 2
4	INPUT 3
5	INPUT 4
6	INPUT 5
7	INPUT 6
8	INPUT 7
9	INPUT 8
10	INPUT 9
11	INPUT 10
12	GND
13	GND
14	GND
15	OUTPUT 1
16	OUTPUT 2
17	OUTPUT 3
18	OUTPUT 4
19	OUTPUT 5
20	OUTPUT 6
21	OUTPUT 7
22	OUTPUT 8
23	OUTPUT 9
24	OUTPUT 10
25	GND

AV/RGB INPUT COMPONENT/RGB 端子



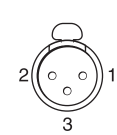
ピン番号	機能
1	映像入力 R/R-Y
2	映像入力 G/Y
3	映像入力 B/B-Y
4	接地
5	接地
6	接地
7	接地
8	接地
9	N.C
10	接地
11	N.C
12	N.C
13	複合同期信号 / 水平同期信号　SYNC/HD
14	垂直同期信号　VD
15	N.C

OUTPUT COMPONENT/RGB 端子



ピン番号	機能
1	映像出力 R/R-Y
2	映像出力 G/Y
3	映像出力 B/B-Y
4	N.C
5	接地
6	接地
7	接地
8	接地
9	N.C
10	接地
11	N.C
12	N.C
13	複合同期信号 / 水平同期信号　SYNC/HD
14	垂直同期信号　VD
15	N.C

MIC INPUT 1 ～ 4 端子



ピン番号	機能
1	GND
2	HOT
3	COLD

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。
付属のソフトウェア SRP-X500P Manager を起動して本体の設定を確認してください。それでも解決できないときは以下の項目をチェックしてください。

症状	原因／対策
電源が入らない	• 電源コードが抜けている。 →電源コードを AC IN 端子とコンセントに奥までしっかり差し込んでください。
音が出ない	• 入力調節つまみが絞ってある。 →つまみを調節して、音量を上げてください。
	• MASTER 調節つまみが絞ってある。 →つまみを調節して、音量を上げてください。
	• ROUTING の設定が適切でない。 → SRP-X500P Manager で正しく設定してください。
	• SYSTEM TYPE 選択スイッチ の設定が間違っている。 →正しく設定してください。
マイクの音が出ない	• TRIM つまみが絞ってある。 →つまみを調節して、入力レベルを上げてください。
音が歪む	• 入力信号が大きすぎる。 →入力調節つまみを絞って、入力レベルを下げてください。
映像が出ない	• 映像入力信号の設定が適切でない。 →映像入力信号を正しく設定し直してください。
	• PROJECTOR PROTOCOL 選択スイッチの設定が間違っている。 →正しく設定してください。
RS-232C で本機をコントロールできない	• ケーブルの結線方法が本機の仕様に合っていない。
	• RS-232C の各パラメーター設定が本機の仕様に合っていない。
PROTECTION インジケーターが点灯している	• 故障により DC （直流電圧）が SPEAKERS CH-1/2/3/4 端子に流れた。 → POWER（電源）スイッチを OFF にしてください。
	• 以下の理由で製品内部の温度が規定値を超えた。 － 接続したスピーカーのインピーダンスが低すぎる。 → POWER（電源）ボタンを OFF にして、適正なインピーダンスのスピーカーに接続し直してください。 － 空気吸排気孔（本機左右側面）がほこりによりふさがれている。 →掃除機などでほこりを取り除いてください。
	• SPEAKER 端子がショートしている。 → POWER（電源）スイッチを OFF にして、ショートの原因を取り除いてください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー営業所にお問い合わせください。

正常な使用状態で本製品に故障が生じた場合、当社は本製品の保証書に定められた条件に従って修理をいたします。ただし、本製品の故障、誤動作または不具合により、録音、再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

権利者の許諾を得ることなく、付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、および付属のソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されております。

ソフトウェアを使用したことによるお客様の損害、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負い兼ねます。
ハードウェアにトラブルが発生して記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負い兼ねます。
万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。
付属のソフトウェアは、指定された装置以外には使用できません。
付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/